

「権利と義務4」

アブラハムの終活～心まっすぐに神を求める者に～

創世記25：7-9

■ アブラハムの終活

アブラハムは、神様と出会って、そしてイサクが与えられ、神様の恵みを知ったその時から、彼はその人生の終活を初めたのです。イサクに自分の遺産を継承させていくのです。なぜこんなことをするのでしょうか？聖書を読むと理不尽に感じます。イサクという人間が、この地に生まれます。そして、40歳になって結婚します。そのあと何年子供ができなかったのでしょうか？20年です。父と同じような現象がおきるのです。20年も子供ができなくて彼はどうしたのでしょうか？「イサクは自分の妻のために主に祈願した。」これはただの祈りでありませぬ。非常に強い願いです。祈って願って願って20年。イサクは祝福されていましたが、子供を与えられませんでした。しかしイサクは、アブラハムのようにおおきく神様の前に歴史がないのです。彼の人生は祈願しただけだったのです。だから神様は、彼にその約束を果たしました。それは当然、父アブラハムの祝福です。なぜこのようになったのか？アブラハムが彼に継承したその信仰が彼の中でちゃんと備わっていたからです。終活とは、私たちが物理的継承ではなくお墓に神様が入れた物は、ただの肉体であって先祖代々に加えられた物は、信仰なのです。だから現代に至るまで神様は、アブラハム、イサク、ヤコブとして今現在の自分の神なのです。神様は、アブラハムのときに生きて働き、その信仰をイサクに継承させ、イサクに継承させた思いをヤコブに与えそしてヤコブの思いをあなたに今、今日に継承されている。継承のスタイルは以心伝心、子供に伝えて言ったもの。何を継承するのか？それは、アブラハムの信仰の生き様です。揺れ動く人生の中で神様と出会い神様の示す地に行き、アブラムがアブラハムになって信仰の父になっていく、その結果【父】になったのです。父になった後、どうなったのでしょうか？揺れ動かなくなったのです。救いは恵みによるものです。しかし、その救いの完成は、次の世代に継承される自己に対する死なのです。今回ユースキャンプでのメッセージに「このユースのリバイバルは、あなた達の責任なんだ。お前たちが教会に、帰って子供達に友達にこの愛を伝えなければダメなんだ。」というメッセージでした。そういう風になって子供達が、変わったら日本はどうなるでしょうか？神様はこの時代に、なにか計画をもっていらっしゃるおまかせません。彼らが良くなるためにどうしたら良いでしょうか？私達がしなければならぬことは、アブラハムのように、聖書の中に出てくる人物のように、ダビデように失敗したら戻る人生を、彼らに見せなければならぬのです。絶えず神様を求めて祈る人にならなければなりません。アブラハムがイサクに継承したものはなんだったのか？それは、【祈る】ということでした。イサクがしたことは、ひとつ【主に祈願した。】アブラハムの信仰を、イサクが完成させたこと、その祈りに答え彼が確信するためだったのです。【祈ったら聞かれる！！】今問題を抱えている人は、この問題を解決する一つの答えは、なんですか？【祈り】です。神様は、あなたと向き合いたいです。だから一回目に話しました。【帰ろう！！父の元に帰ろう！！】私達の義務は【神の元に帰ろう！！】

■ 心まっすぐに神を求める者に

人に頼りたくなります。何とかしてって言いたくなります。だけどアブラハムとイサクが神様からとことん学んだ事は、私に信頼せよという事だったのです。それ以外にないのです。【鼻から息のでる者に頼るな】と言われたのです。そして主に従ったのです。アブラハムは神を信頼していたので、ごちゃごちゃ言わなかった。イサクも神様を信頼していたので、神様に文句を言わなかった。あなたのヒストリーはどう書かれていますか？信仰の継承は、肉体的継承ではない。霊的継承です。あなたと同じビジョンを、必ず次の誰かが継承する。でもその影響はあなたから必ず流れる。アブラハムがイサクに流した終活は揺れ動かない人生を彼にさせようとした。アブラハム、イサク、ヤコブの人生を見ると、理不尽なことがたくさんある。なにか問題だったのか？二つの問題があった。一つはエサウの心に問題があった。神様を素直に求める姿でなかった。神様の計画をイエスキリストからあなたに繋ぐために、神様のその人の心を見ているのです。人はうわべを見るが、神は心を見る。神が求められるのは、砕かれた悔いた心である。神様は、人の心で選ばれる。神を愛そうとする、戻ろうとする思いを尊ばれる。

■ ①親になるとは ～継承すること どうつなぐか？

アブラハムはアブラムと呼ばれていたとき、神様に「わたしの示す地へ行きなさい」と言われ、新しい地へ出て行きました。その間アブラハムと呼ばれるようになるまで、彼は自分の思いで行動し失敗することもありましたが、すぐに神様の言葉に戻り歩きました。そして、そんなアブラハムに対し、神様はとことん寄り添い、アブラハムが信仰の父となるよう導かれました。アブラハムの生きた道を見ると、神様がどんな思いで人を愛しているかがよく分かります。アブラハムはそんな難形といえるでしょう。神様はアブラハムを多くの祝福で満たしました。しかし、アブラハムにとって神様から約束された祝福を手に入れることができない事柄がありました。アブラハムとサラとの間には長い間子どもが与えられませんでした。そのうえ、やっと与えられたイサクを今度は神様に捧げるように命令されました。しかもそれはアブラハム自身のいけにえとして捧げると言われたのです。親であれば自分のために大事な子どもを犠牲にするというのは、決してできないことのように思われます。もし、このときアブラハムが自分の気持ちに従ったとしたら、きっと聖書にあるような神様の声に素直に聞き従う姿は見られなかったでしょう。

しかし、アブラハムはこの事を通して神様を恐れること、すなわち神様に信頼し全てを委ねることを決断し、信仰をもって神様の御前に行きました。これはアブラハムが神様に対する信仰の確信を得るだけに留まらず、神様によってアブラハムが信仰の父となるための大事な成長のプロセスだったことが分かります。神様は全能の方ですから私たちの将来をご存知です。それに関わらず、私たちは信仰が試される時があります。そこにはどんな意味があるのでしょうか。そして、そのような時に私たちは一体どのようにしたらよいのでしょうか。

■ ②恵みの中で心すぐな人を選ぶ 神の恵み

恵みで私達があることを忘れないください。神様が、終わりの時代に私達をヤコブのように祝福されているのです。ヤコブはかかとだったのです。かかとして神様に出ました。そしてその姿を見てヨセフもその思いを継承した。ヨセフは、兄弟を救う事になりました。かかとを引き継いだ。神の恵みの中で今日ここにいるんだという事を忘れず、あなたの義務として覚えてください。

■ ③インスピレーションの継承 息を吹き込まれたもの

神様と共に歩む人生の中で、あなたが神様にせよと言われたことをするとき、その責任は誰が取ってくれるのでしょうか？もし、なにかあったら自分が責任を取らなければいけないという思いがあるならばそれは間違いです。責任感は大変ですが、責任は命令をした人にあります。もちろん、それは言われたことを忠実に実行した場合に限ります。もし言われたことに従わず自分の思いで行っているなら、自身が責任を取らなければいけません。そのような時、私たちは不安のなかに歩まなければならないかもしれませんが、愛の方である神様はそんな私達を決して見放したりはしません。いつも寄り添い、私たちが神様に立ち返るように励ましてくださいます。立ち返るなら、神様は赦し、道を示し、責任を取ってください。私たちは目の前に見えることしか見えません。しかし、神様は私たちの将来をみて働かれています。もしあなたが今、信仰が試されていると思うなら、それは将来のあなたのために備えをしているのだということを受け取りましょう。これは、神様を信頼し歩む中で信仰の父として成長していったアブラハムと同じです。イザヤ55:1-11からも、神様が語られるとこのことを行うなら必ず成し遂げられることが分かります。神様に全てを委ね、信頼し、みことばに従っていきましょう。

■ 賀川豊彦

満州事変が起きたとき、日本軍は約1000万人の人を、殺したと言われています。そのときに彼は、満州国に小さな日本語礼拝に招かれました。そんなとき、その中国の教会も地下で礼拝を続けていました。彼はその教会に呼ばれていくのです。日本語礼拝の人は、そこに行つてはいけませんと言われました。あなたが殺されてしまう。でも彼は、いやこれが神の召しなら、私はそこで殺されてもそこに行く。するとそこにたくさん中国人がいました。日本人の牧師という者が、ここで説教をしにくる。俺たちに何かを教えようしている。と大騒ぎになった。そこで教壇に立ったとき彼はこんな風に語りました。「皆さん、日本は皆さんの国に対して、残虐の限りを尽くしています。私は皆さまに講演するために来たのではありません。お詫びするために来たのです。もちろん、お詫びして赦されるものでもありません。しかし、赦せない罪ではありますが、せめてクリスチャンである皆さまには、十字架上で流されたキリストの血潮のゆえに、お赦しいただきたいのです。」そういつて泣き崩れたそうです。すると中国の方々が、みんなが教壇に登り詰めて私達こそ大きな罪を犯していた。神が遣わしたあなたを私達は呪っていた。私達が祈って悔い改めなければならなかった。中国と日本に回復が起きた。そしてその話は、中国の蒋介石にまで届きます。彼はこんな言葉にまで我が国を蹂躪する日本は憎い。しかし日本は、日本に一人の男、賀川豊彦がいるかぎり日本は憎めない。と言った。蒋介石がああ200万人の日本人をなんて黙って返したか？それは賀川豊彦のあの悔い改めによる祈りからです。アブラハムの父の信仰は、この賀川豊彦にまで継承されたのです。そしてあの満州国で大変な失敗を犯した日本軍は、なにも咎められることなく日本に帰ったのです。アブラハム、イサク、ヤコブの神はそのあとあなたにその使命を託し、今私達はそれを握っているのです。あなたがもし選ぶなら多くの人を救うことになる。あなたがもしその継承を、拒むならそこでその命懸けの継承は終わる。一人のその国のリーダーまで、覆る神の愛はなんと深くて大きいのでしょうか。自らの命を自らの義務のために、捧げて自分を無にして仕える姿。なぜ賀川豊彦が、こんなことができたか？それは、イエスキリストがそれを選んだからです。今この場所に立つ恵みは、私達の人生を顧る時にどれほどの恵みでしょうか？しかし私達の人生は、その神の愛とは真つ向かるといって、その計画を悉く壊し歩んできた人生です。アブラハム、イサク、ヤコブが継承してきた【父の元に帰り祈る】揺れ動かされない人生を、私達も引き継いで歩んで行きましょう。

(要約者:岡本 英樹)

(2018年8月26日)